

評価者	都市整備部長	樋田 浩一
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	下水道の整備・管理
目標とすべきまちの姿	公共下水道事業計画区域内の整備はほぼ完了しています。 整備された下水道の維持管理として、効率的かつ効果的な施設の改築・更新を進めています。また、災害時にも下水道処理が継続できる体制を確保しています。 豪雨等の自然災害が発生した場合でも、浸水の被害はなく、市民は安全な環境で生活しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	18.4%	平成30年度(2018年度)	19.0%	平成29年度(2017年度)	19.2%
	平成28年度(2016年度)	16.7%	平成27年度(2015年度)	19.2%		

(2) 妥当性

**令和元年度(2019年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.5%	0.6%	0.2%
ちょうどよい	4.6%	55.0%	0.5%
効果不十分	3.4%	2.2%	9.0%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成30年度(2018年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.5%	1.8%	0.2%
ちょうどよい	5.6%	54.2%	0.3%
効果不十分	2.6%	2.1%	7.4%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成29年度(2017年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.8%	0.9%	0.2%
ちょうどよい	5.6%	52.0%	0.5%
効果不十分	3.9%	4.0%	7.0%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成28年度(2016年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.5%	2.3%	0.4%
ちょうどよい	6.4%	55.1%	1.2%
効果不十分	2.3%	3.6%	6.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成27年度(2015年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.7%	1.3%	0.1%
ちょうどよい	8.3%	52.5%	0.6%
効果不十分	3.4%	1.6%	5.3%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

### (3) 今後の進め方

	もった力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	19.5%	55.4%	1.3%	23.8%
平成30年度(2018年度)	17.4%	57.4%	1.2%	24.1%
平成29年度(2017年度)	19.7%	54.8%	1.4%	24.1%
平成28年度(2016年度)	17.6%	59.3%	1.4%	21.7%
平成27年度(2015年度)	13.0%	60.7%	1.7%	24.6%

## 2 内部評価

### (1) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①下水道使用料の改定に向け、鎌倉市下水道事業運営審議会への諮問を検討するとともに、受益者負担金等賦課・徴収を図る。(都整-26)
- ②未普及家屋等を解消していく。また、接続後の宅内排水設備について適切な維持管理の啓発を行う。(都整-27)
- ③雨水管渠等の整備工事の実施を図る。(都整-32)
- ④持続型下水道幹線再整備事業については、新たなポンプ場の候補地について引続き検討を行う。(都整-33)
- ⑤予防保全型の取り組みのひとつである汚水管の管更生を引き続き行う。(都整-30)
- ⑥山崎浄化センター汚泥処理設備の改築更新工事を平成31年度末までの予定で行う。(都整-50)

### (2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①下水道使用料の改定は、公共下水道の整備及び維持管理を行っていく上で必要不可欠な業務である。受益者負担金等の賦課・徴収も同様である。(都整-26)
- ②未普及家屋等の解消は、公共水域の水質保全に資するのみならず、下水道使用料の収入確保、ひいては下水道事業の健全な運営につながる。(都整-27)
- ③雨水管渠の整備は、豪雨による浸水の被害を減らし、安全な生活環境に寄与する。(都整-32)
- ④持続型下水道幹線再整備事業は、海岸線に埋設された幹線管渠を大深度の自然流下管として整備する事業であり、津波の影響を受ける中継ポンプ場の廃止が可能になるなど、地震・津波対策と老朽化対策を併せて行うことができる。(都整-33)
- ⑤経年劣化が著しい汚水管取付管の布設替えを行うことで、施設の機能低下や施設破損等による道路陥没、侵入水による溢水を未然に防ぐ。(都整-30)
- ⑥施設の改築更新を計画的に進めることは、適正な維持管理で突発故障の防止につながる。(都整-50)

### (3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
		令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元 年度 (2019 年度)	平成 30年度 (2018年 度)		事業内容	予算規模
都整-02	下水道運営事業(特別会計)	85,892	117,168	4.5	3.5	無	d	B
都整-07	下水道運営事業(特別会計)	448	480	0.4	0.4	無	d	B
都整-08	下水道使用料賦課徴収事業(特別会計)	3	4	0.5	0.5	無	d	B
都整-09	管渠維持管理費(特別会計)	232	222	0.4	0.4	無	d	B
都整-26	下水道使用料等賦課徴収事業(特別会計)	104,126	75,754	2.6	2.6	無	d	B
都整-27	水洗化普及促進等事業(特別会計)	12,532	12,288	5.4	5.4	無	d	B
都整-28	管渠維持管理費(特別会計)	97,139	168,732	2.1	2.1	無	d	B
都整-29	雨水排水施設維持管理費(特別会計)	47,577	18,190	2.8	2.8	無	d	B
都整-30	汚水排水施設整備事業(特別会計)	126,292	71,419	5.4	5.4	無	d	B
都整-31	調整区域施設整備事業費(特別会計)	6,918	31,854	1.2	1.2	無	d	B
都整-32	雨水排水施設整備事業(特別会計)	40,941	79,324	4.7	4.7	無	d	B
都整-33	持続型下水道幹線再整備事業(特別会計)	0	71,856	1.0	1.0	無	d	B
都整-44	作業センター事業(特別会計)	11,368	11,486	6.5	5.5	無	d	B
都整-46	管渠維持管理費(特別会計)	72,468	61,708	1.5	1.5	無	d	B
都整-47	雨水排水施設維持管理費(特別会計)	22,652	3,186	0.5	0.5	無	d	B
都整-48	七里ガ浜浄化センター維持管理費(特別会計)	450,702	420,248	2.0	2.0	無	d	B
都整-49	山崎浄化センター維持管理費(特別会計)	703,338	567,814	5.0	5.0	無	d	B
都整-50	終末処理場施設整備事業(特別会計)	263,860	384,140	2.5	2.5	無	d	B

**(4) 主な実施内容**

<p><b>【主な実施内容】</b></p> <p>①下水道使用料の改定は、公共下水道の整備及び維持管理を行っていく上で必要不可欠な業務であるため、鎌倉市下水道事業運営審議会へ諮問した「下水道事業における経営戦略」を策定していく過程で検討することとした。また、受益者負担金等は適切な賦課を行い、徴収を行った。(都整-26)</p> <p>②未普及家屋等の解消は、公共水域の水質保全に資するのみならず、下水道使用料の収入確保、ひいては下水道事業の健全な運営につながるため戸別対応を行った。(都整-27)</p> <p>③浸水被害解消に向け、公共下水道の河川護岸を整備した。(都整-32)</p> <p>④持続型下水道幹線再整備事業については、新たなポンプ場の候補地である市有地2箇所について、管理者と協議・調整を行った。(都整-33)</p> <p>⑤経年劣化が著しい汚水管取付管の布設替えを行った。(都整-30)</p> <p>⑥山崎浄化センター汚泥処理設備の改築更新工事が完了した。(都整-50)</p> <p><b>【実施できなかった事業とその理由等】</b></p>
--

**(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善
<p><b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道使用料の改定に向け、鎌倉市下水道事業運営審議会へ諮問した「下水道事業における経営戦略」を策定していく過程で、今後の下水道使用料についての検討を行った。(都整-26)</li> <li>・未普及家屋等の解消のため臨戸訪問等を行うとともに、市民からの相談や排水設備新設等確認申請書などから水洗化普及促進業務を行い、業務を推進した。(都整-27)</li> <li>・持続型下水道幹線再整備事業における新たなポンプ場候補地について、比較検討を行う候補地を決めることができた。(都整-33)</li> </ul>		

**3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)**

整理番号	都整-26	事業名	下水道使用料等賦課徴収事業(特別会計)						
指標の内容	下水道使用料賦課徴収率				単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	R01(2019)は打ち切り決算である。
下水道事業における利用負担者に課する固有の収入であるため。		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
		実績値	97.9	98.0	98.1	97.6	92.1	82.5	
		達成率	97.9%	98.0%	98.1%	97.6%	92.1%	82.5%	
整理番号	都整-30	事業名	汚水排水施設整備事業(特別会計)						
指標の内容	管更生延長				単位	m	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	令和元年度は管更生工事に替え、取付管布設替工を行った。
予防保全型の取り組みの手法の一つであるため。		目標値	950.0	1,200.0	700.0	700.0	700.0	700.0	
		実績値	701.0	1,106.0	0.0	749.0	212.0	0.0	
		達成率	73.8%	92.2%	0.0%	107.0%	30.3%	0.0%	
整理番号	都整-32	事業名	雨水排水施設整備事業(特別会計)						
指標の内容	雨水整備率				単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
浸水被害の解消に雨水整備率の向上が不可欠なため。		目標値	77.6	77.9	78.0	78.3	78.6	78.9	
		実績値	77.6	77.7	77.8	77.8	77.8	77.8	
		達成率	100.0%	99.7%	99.7%	99.4%	99.0%	98.6%	